

令和 6 年度 海外派遣事業

U S Open Jr Championships

参加報告書



ARTHUR ASHE STADIUM

全国高等学校体育連盟テニス専門部

US OPEN JR 派遣団

男子選手 浅田紘輔 (宮崎県立佐土原)
女子選手 千葉陽葵 (大商学園)
監督 笹井伸郎 (大商学園高等学校)
団長 松村道則 (全国高体連テニス部 中国常任委員)
スペシャルパートナー 上田篤 (アメアスポートジャパン)
全国選抜実行委員会会長 古賀 賢

○期間 令和6年8月25日(日)～9月4日(水)

○日程

8月25日(日) 16:30 羽田(ホテルJALシティ羽田)集合

8月26日(月) 8:00 羽田空港 搭乗手続き、取材対応・撮影

11:05 空路

(日付変更線)

11:05 入国NY

14:00 練習 (MAXMUM テニスクラブ)

練習後、ホテル チェックイン

8月27日(火) 練習日 (MAXMUM テニスクラブ)

8月28日(水) 8:00 クレデンシャル受取・サインイン

The Hilton Midtown (13335 Avenue of Americas)

10:00 公式練習

Cary Leeds Center (1720 Crotone Ave, Bronx, NY 10457)

8月29日(木) 全米オープンジュニア選手権 予選1日目

Cary Leeds Center (1720 Crotone Ave, Bronx, NY 10457)

8月30日(金) 以降は試合の結果による

○滞在宿舎：The Manhattan at Times Square Hotel



宿舎は、昨年と同様で、オフィシャルホテルにも近く、シャトルバスへもすぐ乗車でき、その他の移動も地下鉄を利用でき立地的にとても便利な場所でした。食事等も昨年までの経緯と改善で不自由なく取ることもできました。

8月25日（土）

選手団：各地より羽田空港着 → ホテルJALシティホテル（宿泊）

初めてチーム揃っての夕食（ミーティング）。時間的にもゆっくりとできコミュニケーションもしっかり取ることができた。

8月26日（日）

搭乗手続、取材・撮影、出国 → 入国、練習



○取材コメント

【浅田選手】

まずは楽しむ事を第1に、そして1回でも多く勝って本戦出場を目指して頑張ります。

【千葉選手】

このような機会を頂いた事に感謝をして、1つでも多く勝てるように頑張ります。

【笹井監督】

指導者として選手と共に、最高の夢の舞台に立てることに喜びと幸せを感じています。日本選手団としての誇りと感謝の気持ちを持って、精一杯頑張って来ます。



【松村団長】

USオープンへの選手団としてこのような機会を与えて頂いたことに感謝致します。刺激を受け経験も積めると思いますが、高体連の代表として日本の部活動文化が世界に通用するような遠征になればとも思います。

8月27日(月)

練習日：MAXMAM テニスクラブ

海外選手を招いてのヒッティング練習



【浅田選手】



昨日引き続き Maximum Tennis Development Zone で練習させていただきました。

昨晩しっかり眠ることができ、時差ボケは特に感じず良いコンディションでした。

準備してくださったヒッティングパートナーと 2 時間ちょっとラリーやマッチを行いました。想像以上にハードな練習となりましたが、良い感じで試合に向けて調整できました。

現地の日本人の方々にはたくさん差し入れを頂いたり、フレンドリーに接していただくなど温かく迎えてくださって感謝の気持ちでいっぱいです。結果で恩返しできるように頑張りたいと思います。

【 千葉選手 】



今日も IONA 大学内にある Maximum Tennis Development Zone コートで練習させて頂きました。

長時間の移動は初めてで少し疲れもあったけど、ニューヨークは暑すぎずテニスがとてもしやすい気候だった為コートではしっかり動くことが出来ました。

練習はヒッティングパートナーを用意してくださり、とても良い練習ができました。

現地の方々にはおにぎりを作っていたり、飲み物などもいただき、暖かく接してくださりました。この環境に感謝をしながら明日からも頑張ります。



クラブ関係者の皆さん



【 筒井監督 】

本日も、Maximum テニスクラブのコートをお借りして、とてもいい練習が出来ました。ヒッティングパートナーもつけて下さり、本当に有難いです。二人とも、時差ボケを感じさせない機敏な動きが出来ていたと思います。昨日、本日と Maximum テニスクラブでお世話になった多くの方々にも、本当に感謝です。みなさん、とても気さくで明るく、親切な方々ばかりでした。この応援を力に変えて、頑張ってほしいです。

【 松村団長 】

現地の選手とヒッティング、マッチ練習を行いました。1時間ひと通りショットを確認し、1時間のマッチ練習と2時間程度しっかりと練習することができました。

大会の事前に海外の選手と手合わせしてもらえたことで試合への準備も着々とできてきました。また、コートをお借りした MAXIMUM テニスクラブ関係者の日本人コミュニティの方々に手厚い歓迎とサポートを受けました。皆さん気さくな方々でおにぎりやフルーツ、飲料水なども用意して頂き、とてもアットホームな雰囲気の中で練習できたことで選手達もリラックスできテニスに集中できた時間となりました。選手達も色々な方々のサポートを受け、より試合に向けて気力も充実しています。

海外での試合に不安もある中、日本の温かさ触れさせて頂いたことに大変感謝致します。私も含めて選手団にとって、とても心強いものでした。

8月28日 (火)

クレデンシャル受取・サインイン、公式練習：大会会場 (Cary Leeds Center)

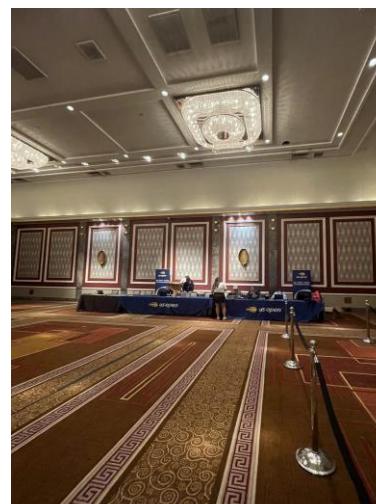


ここに至るまでに、全国選抜テニス実行委員会の担当の方々がWC申請やエントリーなどに携わってこられました。ここでこれまでの申請に不備がありクレデンシャルが受けなければ試合にも出場でないということで、実行委員会の方々が一番神経を使われた部分です。

(会場は Hilton Hotel 内の大きな会議室のような一室で行われ、パスポートを提示して身分証明をする程、厳重な受付です)

ここは、古賀会長の US OPEN STAFFへのアプローチもあり、スムーズにクレデンシャルを受け取ることでき、サインインも完了しました。

この後、ドローも決定します。



バスを受け取り、シャトルバスにて大会会場での公式練習に向かいました。

この日の会場練習は、本番に向けて、会場の雰囲気に慣れ、海外の選手に物怖じしないための準備をすることが目的のひとつでした。海外の選手に自ら声をかけヒッティングをしてもらい、コミュニケーションなど行動に積極性を出していくことを心掛けました。



シャトルバス乗り場で、米国と選手（U16 米国チャンピオンでした）とコンタクト、会場で練習してもらえることになりました。

会場でのサインインとコート予約を済ませて練習へ。千葉選手はバス乗り場でコンタクトを取った選手と、その選手の帯同コーチとの交渉も成立し、浅田選手はコーチとヒッティングしてもらえることになりました。

その後も浅田選手は、練習コートを確保し、ヒッティング相手を探し多くの選手に声かけていきました。なかなか見つからない状況でも、話しかける方法を工夫して自力でクロアチアの選手と練習することができました。

不慣れな海外での大会の雰囲気に慣れ、外国人選手を相手にするメンタリティな心配要素は解消されました。また、2人の積極的なコミュニケーション力はスタッフ側から見ても心配はなさそうに感じさせてくれました。



【 浅田選手 】



本日は8時にクレデンシャルを受け取り、その後に試合会場で公式練習を行いました。

初めに千葉選手の練習相手の女子選手のコーチの方にヒッティングしていただきました。その後に20人近くに声をかけて、クロアチアの選手と練習することができました。練習に誘っても断られ続けながらも、声のかけ方や誘い方を工夫しながら、交渉したことはすごく良い経験になりました。また海外に出て、自分を発信していく力の大切さも身に染みて感じることができました。

古賀会長のように、積極的にコミュニケーションを取り、失敗を恐れずに挑戦し続ける人物になりたいと思いました。

21時過ぎにドローが発表され、1回戦は第9シードのイタリアの選手との対戦が決まりました。自分のできることを最大限に発揮し、最後まで諦めずに泥臭く戦い抜きたいです。

【 千葉選手 】



今日の8時にサインインを行い、その後、試合会場に移動して前日練習を行いました。

私はアメリカの選手と練習をしました。海外の選手のボールは重くて振り遅れることもあったけど最後にはしっかり合わせて良い感覚でラリーをすることが出来ました。

明日の対戦相手も決まったので、相手に圧倒されずに自分のできることをしっかりして戦います。

【 笹井監督 】



2人ともヒッティングパートナーが見つかり、コミュニケーションを上手く取りながらいい練習ができました。外国人選手と会場の空気を感じながらの練習は、やはり昨日までより一層緊張感が感じられました。

21時半頃にドローが発表され、明日の対戦相手が決まりました。浅田選手はイタリアの選手と、千葉選手はアメリカの選手との対戦と決まりましたが、誰と対戦しようがプレないで自分のテニスを貫き通してほしいと思います。覚悟も決まったと思うので、しっかり準備をして頑張ってほしいです。



8月29日(水)

大会1日目

浅田選手は第9シードのイタリア選手
千葉選手は第16シードのアメリカの選手
との対戦でした。

浅田選手 ●4-6, 4-6

浅田選手の相手は長身の左利きでサーブはもちろん力
強さと巧さのあるストロークも強い選手でした。

1stセット序盤はそこで圧倒され2-5と離され、中盤から長いラリー戦に持ち込みましたが4-6と先取されました。しかし、それでペースを掴んでいけたことが、2ndセットに生きてきました。コートを走り回り相手ショットを打ち返し続け流れの良い時間帯もありました。お互いにキープが続き、ブレイクチャンスもありましたが、さすがに強い選手はそこを取らせてくれません。ここぞという場面で相手選手がもう一段階上げてきます。特に、サービスの強さが際立っていました。やはりこれが日本の男子の大きな差です。そういう部分で相手が一枚上手でした。4-6と一歩およばず惜敗でした。



千葉選手 ●6-2, 1-6, 9-11

千葉選手の対戦相手はプレイスタイルの似た感じの選手でした。

1stセットは緩急を使い相手を翻弄し要所でウイナーを取るなど6-2と先取しました。

2ndセットになると相手もそのボールに慣れミスも減りリズムも良くなり逆に1-6とセットを奪われ、勝負はファイナル10ポイントタイブレークに。

序盤の攻防から両者が持ち味を出し合う好ゲームに頭ひとつリードして9-7とマッチポイントを握りました。しかし、そこから相手選手の勝利への意地が上回ったかのように、強打での攻撃や粘り強いプレーなどの精度があがり一気に逆転され9-11と惜敗でした。



【 浅田選手 】



予選1回戦では、第9シードのイタリア選手と対戦しました。第1セットでは、相手の長身から繰り出される強烈なフォアハンドとサービスに苦しみ、序盤で2ブレークを許して2-5とリードを奪われました。しかし、徐々にラリーのペースを掴み、ブレークに成功して4-5まで追い上げましたが、最終的に4-6でセットを落としました。第2セットでは、サーブレシーブで劣勢にならなければストローク戦ではリードする場面もありましたが、サービスの差で1ブレークを許し、4-6で敗れました。

試合を通じて、ミスは少なく自分できることはしっかりとできましたが、上から叩くフォアハンドやサービスの精度が不足していた点が相手選手との差となったと感じました。しかし、これまで練習で積み上げてきたストロークがグランドスラムの舞台でも通用することを実感できたのは大きな自信となりました。

また、多くの方々が応援に駆けつけてくださいり、海外での試合とは思えないほどのホームのような雰囲気でプレーできたことに深く感謝しています。このような大きな舞台で試合をする貴重な経験を得たことに感謝し、今後もテニスに真摯に向き合っていきたいと思います。

【 千葉選手 】



今日は予選1回戦があり、第16シードのアメリカの選手と対戦し、6-2, 1-6, 9-11で敗れました。

ファーストセットは自分から展開をつくり、最終的には自分の得意なフォアの逆クロスでのエースでポイントを取る形ができ、相手のミスも時々あり、セットをとることが出来ました。

セカンドセットに入り、相手のミスが少なくなり、自分も守りのテニスに入ってしまい最後は自分のミスが増えてポイント取られる形でセカンドセットは取られてしまいました。

ファイナルセットでは粘り強くラリーをしてポイントを重ねていき、9-7でマッチポイントもありました。ですが相手も振り切って打ってきて、自分がそれに対応できずに最終的には逆転され9-11という結界で負けてしまいました。

試合をしている中で、応援の声が聞こえてきてそれを聞いて励みにもなったし頑張ろうと思いました。

そして、グランドスラムでも自分のテニスは通用するという事が実感できたので、これから課題であるサーブなどを練習してこの経験を生かしていきたいと思います。

そして、このような機会を与えてくださったことに感謝をして、これからも頑張ります。

[笹井監督]

2人とも、本当によく打ち、よく粘り、最後まで心ブレずに、諦めずに戦い抜いてくれましたが、あと一步のところで惜敗しました。

しかしながら、今自分の持っている力は出し切ってくれたと思います。日本から、また現地でお世話になった方々から応援していただいていることをしっかりと胸に受け止め、それを力に変えて本当によく頑張ってくれました。悔いは残っているかもしれません、その気持ちは今後の成長に必ず生かされると確信しています。2人には、まだまだ伸び代があります。この大舞台での経験を更なる飛躍に繋げてほしいです。

お疲れ様でした。そして、有難う！

[松村団長]

両選手ともコート狭しと走り回り自身の持ち味をしっかり発揮しました。

各々の持ち味は発揮できていました。長いラリー戦に持ち込み流れをつくり、打ち込まれても食い下がる粘り強さなど、日本の高校テニスらしさも発揮して互角に戦ってくれました。

また、お世話になったテニスクラブ関係者の日本人コミュニティで応援に駆けつけてくださいましたが、応援をしてもらえる選手として礼節ある振る舞いもできていました。

不慣れな海外でも両選手の積極的なコミュニケーション力にも感心しました。

両選手に帯同して、私の遠征テーマでもあった部活動文化がしっかり通用した部分が多くありましたと感じさせてもらいました。

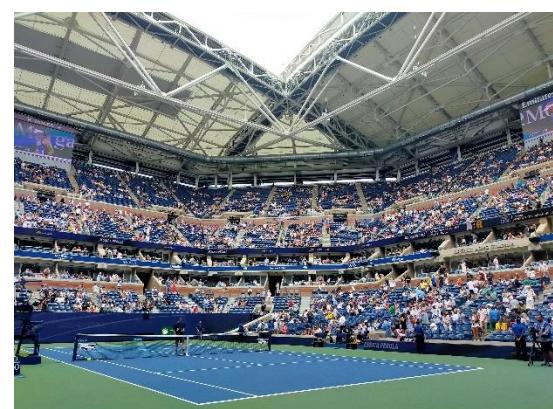
ここで勝ち上るることは簡単なことではありませんが、通用する部分は大いにあると感じました。今後、この機会を与えられた選手達が勝ち上がっていける糧にしたいと思います。

8月30日(木)～(試合終了以降)

試合が終わってからは、US OPEN の本会場の見学や試合観戦などに時間を使わせて頂きました。



選手団、初めて本会場に足を踏み入れ、大規模な会場に圧倒され、観客の多さ(高額の入場料…)
そして、世界中から集まった会場内の観客の熱気などなど、驚くことばかりでした。



メインコートのアーサーアッシュスタジアムのスケールの大きさは何とも言い表せないほどです。



メインコート周辺にもスタジアムコート(日本のセンターコート並)が数コート、その周辺にも
スタンド付コートが数多くあり、適切な言葉ではないかもしれません、テニスのテーマパーク
のようで、各スタジアムへの入場もまるでアトラクション待ちの行列のようでした。

そして、全国選抜テニス大会でもご協力頂いています WOWOW 様の御好意により、大会のバックヤード（報道現場）を見学させて頂きました。



映像ルームにも招待して頂きました。全コートのモニターが設置され配信されています。そこに、松岡修造さんがお越しになり、お忙しい中、記念写真など我々相手にも対応して頂きました。

映像ルームだけではなく、アーサーアッシュスタジアム内の選手や報道関係者が通るバックヤードも通行させて頂き、誘導してもらったその先には、選手、関係者がスタジアムに入りする通路からのテニスコート。

試合の合間の時間でコートに入らせて頂きました。



スタンドの観客席から見る光景と全く違う角度からスタジアムを一望できたことは一味違う感動でした。選手達は特別にコートサイドの特別席にも座らせてもらい、とても貴重な体験をさせて頂きました。



さらに、スタジアム横のトップ選手達のプラクティスコートを見学、そこも報道関係の撮影場所となるコートサイドから見学させて頂き、目の前でトップ選手達の練習を見学させて頂きました。女子ディフェンディングチャンピオンのガウフ選手や男子のルード選手が練習をしていました。練習を見ているだけで、大変、勉強になりました。

フットワークが凄く、一定の姿勢と一定の打点を保ち一球一球が確実でした。また、集中力も高く、コーチを始めとするチーム全体からも緊張が伝わってくる程でした。練習の取り組みから見習うことが多くありました。



試合観戦もしっかりできました。（トップシードの選手の試合はメインのスタジアムで行われ、そこは指定席やさらに高額なチケットが必要で観戦できず残念でした）しかし、多くのコートで試合があり、数コートを移動しながら、ランキング30位前後の選手達の試合や、女子ダブルスの1シードペアの試合など数試合を観戦しました。

世界レベルを目のあたりにしました。何よりフットワークが凄く1ラリーでの攻防も面白く、早い展開での攻撃に見ごたえもあり、ディフェンス力の高さにも目を魅かれました。ショットの回転量も多く相手コートを広く使うショットの精度や、重要カウントでのサービスエースは圧巻でした。

そして、1ポイントに一喜一憂し感情を表現する観客達もまた試合の一部のように感じ、試合がとても楽しいものに感じられました。

世界ではテニスはメジャーなスポーツであり（本選1R敗退でも一千万円以上の賞金）、この規模からも想像できるように、目指す世界が広がる夢のあるスポーツなのだと実感できました。

U S OPEN を終えて 総括レポート

【 浅田選手 】



この度の遠征において、サポートしてくださった全ての方々に心より感謝申し上げます。ニューヨークでの 10 日間は、夢や野望に新たなエネルギーを感じ、良い刺激となりました。

アメリカでは、現地の日本人の方々から差し入れや練習場所の提供、試合の応援など、数え切れないほどのサポートを頂きました。多くの方の支えがあってテニスを続けられていることに、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

この遠征で最も大変だったのは、会場での練習相手探しでした。約 20 人に声を掛け、ようやく練習相手を見つけることができました。どのように声を掛けるか試行錯誤を繰り返し、自分から積極的に発信する力の重要性を痛感しました。

試合は 4-6、4-6 でした。相手選手との大きな差はサーブでした。肝心な場面でサービスポイントを取られてブレークしきれなかった一方で、自分のサービスゲームでは 1st サーブが入らないと苦しい展開が多くなり、3 ブレークを許してしまったことが最大の敗因だと感じました。

また、プロの試合を見てもゲームポイントでサービスポイントを取る場面が多く、世界で戦うためにはサーブの強化が不可欠だと思いました。

ラリーでは相手に引けを取らない戦いができたので、自信になりました。

最後になりましたが、大会パートナーの皆様、高体連テニス専門部の皆様に重ねてお礼申し上げます。US オープン Jr. に出席する機会をいただき、ありがとうございました。昨年度、日韓中ジュニア交流競技会に派遣して頂いたことが全国選抜優勝への大きな契機となりました。今回の遠征におきましても、心強いサポートや競技に集中できる環境を整えて頂いたことに感謝してもしきれません。「選抜王者から US オープンのチャンピオンを輩出する」というプロジェクトの一翼を担える人材となれるよう、今後もさらに努力してまいりたいと思います。

【 千葉選手 】

約 10 日間ニューヨークに行って、とても貴重な経験をさせて頂きました。



試合では予選の 1 回戦でフルセットまでいき、またマッチポイントもあったけれど大事なところで取りきれず負けてしまいました。

ですが、自分のテニスがグランドスラムという大きな舞台でも通用するという事が分かり、この先練習でやるべき課題も明確に分かったのでこの大会で出た課題をこれから練習で取り組んでいきたいと思います。

また、私は初めての海外だったのではじめは積極的にいきずにいたけれど、最後の方では自分から積極的にはなしをする事もでき、人間的にも成長出来たと思います。

そしてこの遠征で沢山の方々に応援していただき色々な方々の支えがあってテニスが出来ていることを実感しました。

この遠征で感じた事を、この先、後輩など色々な人に伝えていって感謝の気持ちをもちながらこれからもテニスに向き合っていきたいと思います。

ありがとうございました。

【 笹井監督 】

日本選手団として、本当に充実した濃い 9 日間を過ごさせていただきました。

試合は、2 人とも予選敗退となってしまいましたが、その内容は非常に濃く、互角の戦いをしてくれました。また、2 人が敗戦した対戦相手の選手が男女とも本戦に進出したこともあり、十分にこの舞台で戦えることは示してくれたと思っています。

また、この遠征で多くの刺激を受け、人間的にも素晴らしい成長してくれたと実感しています。この経験を必ず次代に伝えてほしいと思います。

そして、来年度以降もこの大舞台で優勝することを真剣に目指す選手が育ってくれることを切に願います。同時に、私自身も素晴らしい経験をさせていただき、微力



ながら今後もその一翼を担って行きたいと、改めて決意しました。

お世話いただいたみなさまに、心から感謝します。

本当に、有難うございました。

【 松村団長 】



全国高体連テニス専門部の代表として今大会に参加させて頂いたことに大変、感謝しております。

そして、今大会の WC を与えて頂き、試合ユニフォームなど多くをご提供頂いたアメアスポーツジャパン様、航空券をご提供頂いた日本航空様、選手団ユニフォームをご提供頂いた Setinn 様や WOWOW 様をはじめとする大会パートナーの皆様に本当に感謝申し上げます。

現地では、MAXIMUM テニスクラブの関係者の皆様には、手作りのおむすびや飲み物、フルーツを用意してくださり、試合同日には応援に駆けつけて頂き、選手達の栄養補給の飲食まで準備くださり心温かいサポートを受けました。大変なご好意に感謝致します。また、現地コーディネーターの馬場様、ヒッティングパートナー等の練習環境の段取りもありがとうございました。

また、今年は両選手のご家族の方々も来場され、皆さまの応援もとても心強かったです。そして、昨年の懸案事項にあったランドリーは保護者の方々にお助け頂き、今年は解消できました。

試合に関しては、浅田選手・千葉選手ともに惜敗でしたが、自身の持ち味はしっかり出し、自分達の最大パフォーマンスができたと思います。それには、NY 入りしてから、海外の環境に対応して両選手のコミュニケーション力、行動力など順応力が高かったことも理由があったと思います。そして、ただ順応していくだけではなく、その中でも自分をしっかり持て期間中の生活を送っていたことも試合の中で自分らしさを発揮できたのだと感じました。

技術面では、この大会でも十分に通用する部分も多くあり自信も持てたと思います。しかし、両選手、勝利にあと一步届かなかった結果ですが、その一步にまだまだ差はあるようにも感じました。それは、試合日のレポートで述べたように、大事な場面でのプレイです。特にサービス力の差が歴然としていました。大事なポイントはほぼサービスからのポイント、その後の攻めのショットも強力で精度も高いものでした。千葉選手の対戦相手もマッチポイントを握られてからのプレイは、強打も守りからのカウンターも全くミスがありませんでした。

両選手、このことは自らの肌で感じていると思います。この差を埋め、更に力をつけて世界で勝てる選手へとなつてもらいたいと思います。



両選手と共に過ごす中で、日々、二人が成長していく姿にも感心しました。海外での生活で何かに刺激を受ける度、目に見える程成長していく、生きていく力がどんどんたくましくなり、人間力を高めていく日々でした。(時に私が二人を頼ることもあるくらいでした…)その中でも選手団に帯同して頂いてた古賀会長の存在も二人に大きな影響を与えたひとつの要因だと思います。

このNYでの遠征は、テニスは勿論のこと、人間的にも成長させてもらえる最高の機会であり、全国選抜テニス大会優勝の価値の大きさを改めて感じさせられました。

そして、私もUS Openを肌で感じ、テニスは、やはり世界という夢が広がるスポーツなんだとすることが実感できました。

私のこの遠征のテーマは部活動文化がどれだけ通用するか!でしたが、今大会でそれが通用できることを認識でき、今後、この大会に出場する選手が勝利していくことは可能だと確信しました。今大会の実績が来年以降の選手達の糧となり、この舞台で日本の部活動から活躍する選手が輩出され、チャンピオン!が生まれることを願いたいと思います。



選手団として帯同して頂いたアメアスポーツジャパン ウィルソンの上田様の選手団への気配りやサポート、色んなことへの対応など、心強い味方でした。本当にありがとうございました。



全国選抜テニス大会実行委員会 古賀会長も帯同して頂き、選手団にとって大きな存在でした。ありがとうございました。これからも、全国選抜テニス大会の発展、選抜からUS OPEN チャンピオン!の実現に向け、よろしくお願ひ致します。